

No. 12 急性アルコール中毒

事例	年齢：1歳 性：女	
傷害の種類	誤飲	
原因対象物	カルピスサワー エタノール 12g (約 1g/kg 相当) 含有 (店によると)	
臨床診断名	急性アルコール中毒	
発生状況	発生場所	焼肉店 (食事中)
	周囲の人・状況	両親, 店員
	発生時刻	19時45分頃
	発生時の詳しい様子と経緯	普段、両親は兄に清涼飲料を飲ませておらず、外食の時のみ特別に許可していた。兄にカルピスソーダを注文した所、店員が誤ってカルピスサワーを運んで来て、両親、兄とも気付かず一気のみした。顔面紅潮、歩行時ふらつき、興奮を認め、20時20分に当院に救急搬送された。
治療経過と予後	病院に到着時の体温は36.7℃、SpO ₂ 100% (room air)、HR 150/分、体重 12kgであった。誤飲後1時間以内であり、念のため温生食にて胃洗浄 (1,000ml) を行った。一般検血、血液生化学、血糖には明らかな異常を認めず、静脈血ガスはBase excessがマイナス5.7と低く、乳酸が48mg/dlと高かった。1号液 400mlを2時間点滴静注の後、3号液 50ml/時間の維持輸液で経過観察したが、処置後のバイタルサインは安定し、痙攣などは認めなかった。翌朝には意識清明、歩行正常であり、全身の診察所見にも異常を認めないため退院とした。	

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. アルコールの誤飲は比較的多い。日本中毒情報センターの受信報告によると、5歳以下の飲料用アルコールの誤飲は、165件 (2005年)、132件 (2006年)、169件 (2007年) となっており、年齢では1歳が約6割、0歳が2割を占めている。
2. 5歳以上では、フルーツ風味のアルコール飲料をジュースと間違えて飲む場合が多く、1994年から国民生活センターは企業に対し何度も警告を出しているが、未だに同じ事故が起こっている。
3. 乳児では、正月の準備で忙しいときに、日本酒をお湯と間違えてミルクを作って乳児に飲ませた事故の報告がある。
4. 最近では、乳幼児を連れて居酒屋に夫婦で出かける家族が増えており、今回のような事故が起こる可能性が高い。
5. 注文を聞くとき、サワーとソーダを聞き違えたり、作成時に間違える可能性がある。また、大人が飲むつもりで机の上に置いたアルコール飲料を子どもが飲んでしまう場合もありうる。甘い飲料であれば、幼児が一気飲みする可能性が高い。
6. 日常的にアルコールを提供する飲食店においては、乳幼児に出す飲料について店員2人でアルコール飲料か否かを確認する作業が必要である。